



2024年9月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年11月13日

上場会社名 株式会社まぐまぐ 上場取引所 東
 コード番号 4059 URL https://www.mag2.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 熊重 晃
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CSO兼CFO (氏名) 浅野 匡志 (TEL) 03(5719)5703
 定時株主総会開催予定日 2024年12月19日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2024年12月20日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期の業績(2023年10月1日~2024年9月30日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期	454	△4.3	5	—	5	—	△84	—
2023年9月期	475	△17.0	△78	—	△78	—	△478	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年9月期	△30.04	—	△7.8	0.5	1.2
2023年9月期	△170.13	—	△42.2	△6.1	△16.6

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年9月期	964	809	83.9	287.69
2023年9月期	1,034	894	86.4	317.72

(参考) 自己資本 2024年9月期 809百万円 2023年9月期 894百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年9月期	8	△10	△0	830
2023年9月期	19	△172	△0	832

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2024年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2025年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 2025年9月期の業績予想(2024年10月1日~2025年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	486	6.8	23	314.9	23	313.8	22	—	7.93

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2024年9月期	2,814,800 株	2023年9月期	2,814,800 株
2024年9月期	49 株	2023年9月期	49 株
2024年9月期	2,814,751 株	2023年9月期	2,814,751 株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績の概況（5）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	3
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 業績予想値と実績値との差異	3
(5) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 財務諸表及び主な注記	5
(1) 貸借対照表	5
(2) 損益計算書	7
(3) 株主資本等変動計算書	8
(4) キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報等)	10
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、世界的な物価の高騰や不安定な金融資本市場の動向により、依然として先行きが不透明な状態が続いております。

当社を取り巻く事業環境において、プラットフォーム事業が属する静止画・テキストコンテンツ市場につきましては、「デジタルコンテンツ白書2024」（一般社団法人デジタルコンテンツ協会）によると2023年度の市場規模は前年比98.5%の2兆8,628億円となりました。また、当社のメディア広告事業が属するインターネット広告市場につきましては、「2023年日本の広告費」（株式会社電通）によると2023年のインターネット広告費（インターネット広告媒体費のみ）は前年比108.3%の2兆6,870億円となり、前年に引き続き高い成長率で推移しております。

当事業年度における当社の業績は、売上高は454,935千円（前年同期比4.3%減）、営業利益は5,606千円（前年同期は営業損失78,926千円）、経常利益は5,623千円（前年同期は経常損失78,619千円）、当期純損失は84,549千円（前年同期は当期純損失478,863千円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① プラットフォーム事業

プラットフォーム事業においては、メルマガ配信プラットフォーム「まぐまぐ!」および記事販売プラットフォーム「mine」が属しております。

当セグメントの軸である有料メルマガサービスに関して、メディア広告事業と連携して新規クリエイターの獲得を推進しており、加えて、ユーザーインターフェースの改善に継続的に取り組んでいくことにより、プラットフォームの利便性の改善およびユーザビリティの向上に努めております。また、ライブ配信サービス「まぐまぐ! Live」では有料メルマガクリエイターによるライブ配信の利用促進を進めてまいりましたが、2024年11月30日をもちまして、当サービスの提供を終了することを決定しております。背景としては、これまで「まぐまぐ! Live」が抱えていたサーバーコストの増加等の課題が徐々に顕在化し始めたことおよび2023年12月に社長交代による新体制がスタートしており、新体制の下で将来における当社の安定した業務遂行やクライアントへの付加価値提供のためにはこのタイミングで当サービスを終了し、事業を効率化することが望ましいと判断したためであります。

その結果として、プラットフォーム事業の売上高は303,302千円（前年同期比0.0%減）、セグメント利益は168,684千円（前年同期比70.9%増）となりました。

② メディア広告事業

メディア広告事業においては、Webメディアの運営および「Webメディアコンテンツ」・「メルマガコンテンツ」の広告枠販売サービスが属しております。

Webメディアにおいては、自社メディア「MAG2 NEWS（まぐまぐニュース）」「MONEY VOICE（マネーボイス）」「TRiP EDiTOR（トリップエディター）」「by them（バイゼム）」「PLAYLIFE（プレイライフ）」の知名度およびユーザー満足度の向上を模索してまいりました。新規ライターの新規獲得や話題性のある記事を数多く掲載し、PVおよびUU数が堅調に推移した一方で、広告単価が回復せず売上金額に影響を与えております。また、Webメディアコンテンツ・メルマガコンテンツの広告枠販売においては、需要の高まりのある業種を中心に広告販売の強化を行っている一方で、広告単価は低い水準となっており売上金額に影響を与えております。

その結果として、メディア広告事業の売上高は151,432千円（前年同期比11.7%減）、セグメント利益は35,833千円（前年同期比13.9%減）となりました。

③ その他事業

その他事業においては、イベント企画等が属しております。イベント企画はクリエイターの活動の支援と促進を目的としています。当社がクリエイターの活動を支援し、活性化のサポートをすることで、クリエイターの知名度と信頼性を向上させ、ブランディングに貢献しております。

当事業年度においては、オフラインでクリエイターを迎えた有料のイベントを1件開催しております。

その結果として、その他事業の売上高は199千円（前年同期比69.3%減）、セグメント利益は46千円（前年同期はセグメント損失1,008千円）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当事業年度末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ70,050千円減少し、964,917千円となりました。これは主に、投資有価証券が81,737千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当事業年度末における負債につきましては、前事業年度末に比べ14,498千円増加し、155,153千円となりました。これは主に、預り金が14,470千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当事業年度末における純資産合計は、前事業年度末に比べ84,549千円減少し、809,763千円となりました。これは、当期純損失の計上により利益剰余金が84,549千円減少したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前事業年度末に比べ2,587千円減少し、830,269千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は8,203千円（前年同期比58.9%減）となりました。この主な要因は、税引前当期純損失が83,599千円に対して、投資有価証券評価損が81,737千円、減損損失が7,484千円、のれん償却額が2,783千円であったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は10,790千円（前年同期比93.8%減）となりました。この主な要因は、無形固定資産の取得として10,790千円支出したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は0千円（前年同期比67.3%減）となりました。これは、配当金の支払いによるものであります。

(4) 業績予想値と実績値との差異

2023年11月13日に公表いたしました2024年9月期（2023年10月1日～2024年9月30日）の業績予想値と実績値との間で差異が生じております。当該差異の詳細につきましては、2024年11月13日公表の適時開示資料「業績予想値と実績値の差異および特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

(5) 今後の見通し

今後の見通しにつきまして、世界的な物価の高騰や不安定な金融資本市場の動向により、依然として先行きが不透明な状態が続いております。当社は、今後も引き続き、経営環境の事業への影響を注視していくとともに、変化に対応できる体制の構築を図ってまいります。

このような状況のもと、当社は2023年12月に社長交代による新体制がスタートし、事業活動の軸であるプラットフォーム事業の拡大を中心にメディア広告事業とのシナジー効果により更なる成長を目指す方針であります。

プラットフォーム事業においては、クリエイターリクルートおよびプロデュース施策を強化していくことで、新規クリエイターの獲得及び既存クリエイターの集客を支援します。また、高負荷な環境でも高い安定性のプラットフォームを再構築し、ユーザビリティとサービス利用者の継続性が向上することで有料会員数の増加に努めてまいります。

メディア広告事業において、Webメディアの運営では、自社メディアのPV、UUの成長を前提としつつ、プラットフォームへの集客エンジンとしての機能も強化してまいります。新規ライターの獲得や外部メディアとの提携、メルマガの記事化を継続することで、自社メディアの強化を行い、新規読者層の取り込みやリピーター読者層の増加に努めてまいります。また、Webメディアコンテンツ・メルマガコンテンツの広告枠販売においては、需要の高まりのある業種を中心に広告販売を強化する取り組みにより改善を図ります。

また、2024年8月21日より新たにサービス開始となりました「MagOne (マグワン)」においては、クリエイターのための新たな情報発信基地、次世代ファンコミュニティサイトとしてより一層クリエイター支援の強化を図ります。

しかしながら、プラットフォーム事業においてはインターネットビジネス業界の環境変化のスピードに合わせる形で、新技術の開発コストが増加し、メディア広告事業においては市場全体の広告単価低下の影響が、収益に大きく影響しております。

当社の競争優位性を確保していくため、積極的に成長産業分野への出資およびマーケティング戦略への投資を実施してまいりましたが、競争の激化、外部環境の変化により、当初想定していた収益の獲得が困難になり、慎重に実現可能性を検討した中期経営計画をもとに将来の収益獲得見込及び将来キャッシュ・フローを見積もった結果、当事業年度におけるのれんを中心とした固定資産について、7,484千円を減損損失として計上することといたしました。また、当社の保有する投資有価証券（市場価格のない株式）について、取得時の超過収益力の検討にあたり、投資先企業の直近の財政状態、事業の進捗状況及びその他定性情報等をもとに、将来事業計画の実現可能性を検討し、当該事業計画に基づいた超過収益力を算定した結果、81,737千円を投資有価証券評価損として計上することとなりました。

また、「まぐまぐ！ Live」が抱えていたサーバーコストの増加等の課題が徐々に顕在化し始めたことを受け、新体制の下で将来における当社の安定した業務遂行やクライアントへの付加価値提供のためにはこのタイミングで当サービスを終了し、事業を効率化することが望ましいと判断しております。

これらのことから、翌事業年度以降の業績には、償却コストおよびサーバーコスト等の軽減が寄与することに加え、新体制移行後のWEBメディアのタイアップ広告強化、クリエイターリクルートの強化およびM&Aへの資源投入を通じて、両事業における収益性は大幅な改善を見込んでおります。

以上より、翌事業年度の業績見通しにつきましては、売上高486,049千円（前期比6.8%増）、営業利益23,264千円（前期比314.9%増）、経常利益23,265千円（前期比313.8%増）、当期純利益22,315千円（前期は当期純損失84,549千円）を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当事業年度 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	832,856	830,269
売掛金	85,050	97,047
前払費用	12,255	14,427
未収還付法人税等	649	—
その他	476	1,625
流動資産合計	931,289	943,369
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	92,920	11,182
敷金	10,757	10,364
投資その他の資産合計	103,677	21,547
固定資産合計	103,677	21,547
資産合計	1,034,967	964,917
負債の部		
流動負債		
買掛金	15,503	11,838
未払金	11,534	10,916
未払費用	15,242	13,166
未払法人税等	3,156	4,022
契約負債	5,292	3,172
預り金	86,385	100,856
その他	3,539	11,179
流動負債合計	140,654	155,153
負債合計	140,654	155,153

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当事業年度 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	319,328	319,328
資本剰余金		
資本準備金	436,828	436,828
その他資本剰余金	77,259	77,259
資本剰余金合計	514,087	514,087
利益剰余金		
利益準備金	1,800	1,800
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	59,131	△25,417
利益剰余金合計	60,931	△23,617
自己株式	△35	△35
株主資本合計	894,313	809,763
純資産合計	894,313	809,763
負債純資産合計	1,034,967	964,917

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当事業年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
売上高	475,427	454,935
売上原価	291,012	207,675
売上総利益	184,415	247,259
販売費及び一般管理費	263,342	241,652
営業利益又は営業損失(△)	△78,926	5,606
営業外収益		
受取利息	1	14
還付加算金	138	2
雑収入	168	—
営業外収益合計	307	16
経常利益又は経常損失(△)	△78,619	5,623
特別損失		
投資有価証券評価損	—	81,737
減損損失	387,412	7,484
訴訟和解金	10,000	—
特別損失合計	397,412	89,222
税引前当期純損失(△)	△476,032	△83,599
法人税、住民税及び事業税	950	950
法人税等調整額	1,881	—
法人税等合計	2,831	950
当期純損失(△)	△478,863	△84,549

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本									純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	319,328	436,828	77,259	514,087	1,800	537,995	539,795	△35	1,373,176	1,373,176
当期変動額										
新株の発行 (新株予約権の行使)									—	—
剰余金の配当									—	—
当期純損失(△)						△478,863	△478,863		△478,863	△478,863
自己株式の取得									—	—
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△478,863	△478,863	—	△478,863	△478,863
当期末残高	319,328	436,828	77,259	514,087	1,800	59,131	60,931	△35	894,313	894,313

当事業年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本									純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	319,328	436,828	77,259	514,087	1,800	59,131	60,931	△35	894,313	894,313
当期変動額										
新株の発行 (新株予約権の行使)									—	—
剰余金の配当									—	—
当期純損失(△)						△84,549	△84,549		△84,549	△84,549
自己株式の取得									—	—
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△84,549	△84,549	—	△84,549	△84,549
当期末残高	319,328	436,828	77,259	514,087	1,800	△25,417	△23,617	△35	809,763	809,763

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当事業年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失 (△)	△476,032	△83,599
減価償却費	79,868	—
減損損失	387,412	7,484
のれん償却額	—	2,783
商標権償却額	—	35
受取利息及び受取配当金	△1	△14
還付加算金	△138	△2
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	81,737
訴訟和解金	10,000	—
売上債権の増減額 (△は増加)	4,549	△11,996
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,280	△3,664
未払金の増減額 (△は減少)	△1,854	△399
未払費用の増減額 (△は減少)	△410	△1,789
預り金の増減額 (△は減少)	△4,799	14,470
その他	14,054	2,966
小計	14,927	8,012
利息及び配当金の受取額	1	14
訴訟和解金の支払額	△10,000	—
法人税等の支払額	△1,401	△475
法人税等の還付及び還付加算金の受取額	16,443	651
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,971	8,203
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△890	—
無形固定資産の取得による支出	△171,956	△10,790
投資活動によるキャッシュ・フロー	△172,846	△10,790
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△152,877	△2,587
現金及び現金同等物の期首残高	985,734	832,856
現金及び現金同等物の期末残高	832,856	830,269

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、サービス内容等別の事業部を置き、各事業部はサービスの向上と売上および利益の拡大を目指して事業活動を展開しております。

したがって、当社は事業部を基礎としたサービス内容等別のセグメントから構成されており、「プラットフォーム」および「メディア広告」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

報告セグメント	属するサービスの概要
プラットフォーム	メルマガ配信プラットフォーム「まぐまぐ！」の運営等
メディア広告	Webメディアの運営および広告枠販売サービス

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前事業年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	303,355	171,422	474,777	650	475,427
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	303,355	171,422	474,777	650	475,427
セグメント利益又は損失(△)	98,718	41,615	140,334	△1,008	139,325
セグメント資産	68,007	17,043	85,050	—	85,050
その他の項目					
減価償却費	71,196	7,510	78,707	—	78,707
減損損失	369,187	16,020	385,207	—	385,207

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおりません。

当事業年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	303,302	151,432	454,735	199	454,935
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	303,302	151,432	454,735	199	454,935
セグメント利益又は損失(△)	168,684	35,833	204,517	46	204,564
セグメント資産	80,544	16,503	97,047	—	97,047
その他の項目					
減価償却費	—	—	—	—	—
減損損失	—	—	—	—	—

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおりません。

4. 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

売上高	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	474,777	454,735
「その他」の区分の売上高	650	199
財務諸表の売上高	475,427	454,935

(単位:千円)

利益	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	140,334	204,517
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△1,008	46
全社費用(注)	△218,251	△198,957
財務諸表の営業利益又は営業損失(△)	△78,926	5,606

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位:千円)

資産	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	85,050	97,047
「その他」の区分の資産	—	—
全社資産(注)	949,916	867,869
財務諸表の資産合計	1,034,967	964,917

(注) 全社資産は、報告セグメントに帰属しない現金及び預金等であります。

(単位:千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		財務諸表計上額	
	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度
減価償却費	78,707	—	1,161	—	79,868	—
減損損失	385,207	—	2,205	—	387,412	—

(注) 調整額は、主に報告セグメントに帰属しない本社建物等の減価償却費・減損損失であります。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当事業年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
1株当たり純資産額	317.72円	287.69円
1株当たり当期純損失(△)	△170.13円	△30.04円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失および算定上の基礎ならびに潜在株式調整後1株当たり当期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

	前事業年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)	当事業年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)
1株当たり当期純利益		
当期純損失(△)(千円)	△478,863	△84,549
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純損失(△)(千円)	△478,863	△84,549
普通株式の期中平均株式数(株)	2,814,751	2,814,751
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	—
(うち新株予約権(株))	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

(本社移転)

当社は、2024年10月16日開催の取締役会において、本社を移転することを決議いたしました。本社移転の概要につきましては以下の通りです。

(1) 移転先

東京都品川区西五反田7丁目2番17号 TOCビル

(2) 移転時期

2025年1月(予定)

(3) 移転理由

社内外の環境変化をふまえた柔軟な働き方の推進、及びより一層の経営効率化を図ることを目的として本社所在地を上記に変更することといたしました。

(4) 業績に与える影響

本社移転に伴う概算費用については、現在精査中ですが、業績に与える影響は軽微であると判断しております。開示すべき事項が生じた場合は、速やかに開示いたします。